

舞鶴発電所における取放水温度差の環境保全協定値超過概要

昨日からの暴風雨により、取水口に海藻等の漂着物が大量に流れ込んだことで、蒸気を冷却する海水の取水量が減ったことから、取水側と放水側の海水の温度差を低減させるため、1号機は、29日22時15分から出力を降下させ、30日3時45分に運転を停止しました。また、2号機についても、29日21時41分から最低負荷（27万kW）まで順次出力を降下させましたが、結果として、放水する海水の温度が通常より上がったことで、環境保全協定値を超過したものです。

